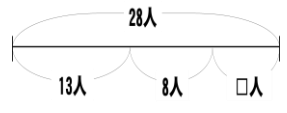
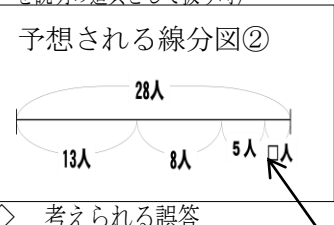


5 本時の学習（3時間取り扱い 本時 3／3）

(1) 目標 情報過多の問題（テキスト）に対して線分図を用いることで、問題場면을的確につかみ、問題場面や解き方を説明したりできる。

(2) 展開

過程	学習活動	時間	○主な発問 ・指示 ◇予想される児童の反応	指導上の留意点と評価	備考
つかむ	1 前時の学習を振り返る。 【一斉】	10	○ 線分図はどんな時に役立ちましたか。 ◇ 問題を考える時に役に立つ。 ◇ 説明する時に役に立つ。	・前時までのノートを拠り所とさせる。	
	2 本時の課題とめあてをつかむ。【一斉】		<p>公園で男の子 13 人と女の子 8 人が遊んでいました。あとから、女の子が 5 人と男の子が何人か来て、子ども的人数は全部で 28 人になりました。</p> <p>あとから来た子どもは全部で何人ですか。</p>		
			めあて 線分図をつかって考えよう		
もとめる	3 個人で考える。【個人】	5	・ 線分図をかきながら式を考えたり、考えを説明したりするために線分図をかきます。	・ 全体量が「28」となる点を一斉で確認した後に、個人思考の時間に入る。	
ふかめる	4 児童がかいた線分図を基にして、考え方を整理していく。【一斉】	20	○ この線分図からどんな式が立ちますか。(線分図を思考の道具として扱う時) ○ この式からどんな線分図がかけますか。(線分図を説明の道具として扱う時)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 線分図のどの部分が何を表しているのかを明確にさせ、板書に記していく。 ・ 線分図から式を見る(思考の道具にする)場面と、式から線分図にもどす(説明の道具にする)場面を想定しておく。 ・ 出てきた線分図の同じ所、違うところに視点をもたせる。 ・ 児童が表した数の意味を問うていく。 ・ 何を問われているのかをつかむために、適宜問題文にもどる。 	
	<p>予想される線分図①</p>  <p>予想される線分図②</p> 		<ul style="list-style-type: none"> ◇ 考えられる誤答 ① $13+8=21$, $28-21=7$, $7+5=12$ ② $13+8=21$, $21+5=26$, $28-26=2$ ◇ 5人は別にいらなと思う。 ◇ あとから来た子どもの数は、男の子も女の子も合わせた数のこと。 		
<p>B基準 問題（テキスト）を表した線分図から、問題場면을説明できる。(ノート, 発言)</p> <p>〈B基準に満たない児童への手立て〉</p> <p>板書を基にふり返らせることで、線分図のどの部分が問題文（テキスト）のどこと対応しているかをつかませる。</p>					
まとめる	5 本時の学習をふり返り、適用題に取り組む。【個人】	10	まとめ 線分図に表すことで、問題の様子がよく分かり、といたり説明したりできる。	・線分図に表し、説明する活動を行う。	挿し絵
	<p>りえさんは740円持って、買い物に行きました。</p> <p>300円のサンドイッチと260円のパンを見ました。サンドイッチをえらんで、240円のジュースと100円のおかしも買いました。</p> <p>りえさんの持っているのこりのお金はいくらですか。</p>				

